

**独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構**  
**平成17年度第2回業務評価委員会 議事録**

日 時： 平成17年11月21日(月) 14:00～16:45

場 所： 独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構 川崎本部 大会議室

議 題： 平成16年度実績評価結果報告、平成17年度業務の進捗状況報告

出席者： (委員) 池島委員長、青木委員、賀川委員、後藤委員、須藤委員、安岡委員、森田委員  
(井出委員は欠席)

(資源機構)大澤理事長、松田副理事長、梅村理事、大塚理事、杉山理事、逆瀬川理事、  
増田理事、花角理事、長棟監事、鈴木監事、数井総務企画 GL、長業務評価・審査 GL、  
石井石油・天然ガス調査 GL、國友金属資源開発調査企画 GL、  
田所企画調整 TL、塩川業務評価 TL、他

内 容：

**1. 開会の辞**

大澤理事長からの挨拶

**2. 議 事**

**(1)平成16年度実績評価結果報告**

数井グループリーダーが資料1を用いて説明

**【質疑応答】**

：総合評価がBということだが、各目標に対する達成度の平均値を総合評価とするのではなく評価対象期間における重要課題・目標に対する達成度を事実に評価するという、「裏づけ評価」を行うべきであると考えますが、どう思うか。なぜなら、JOGMECの事業の特殊性から判断して、その本来のミッションの早期達成は至難の技であると思慮する。

：評価の方法については、部会の各委員の方々が評価したものを算術平均的な評価にならざるをえない。

：国としての大事なミッションを持っている一方で、コスト削減や業務の効率化など様相の違うものも含まれるが、重要業務の評価に比重を置いた評価をしていただきたいという、委員と同様の感想を持った。

**(2)平成17年度業務の進捗状況報告**

**石油・天然ガスを巡る最近の動向**

石井石油・天然ガス調査グループリーダーが資料2を用いて説明

**石油・天然ガス開発支援業務**

大塚理事(石油開発本部)が資料4を用いて説明

【質疑応答】

：プーチン露大統領が来日し、ホットな話題であるが、資料4、12ページに東シベリアの未開発油田を対象とした評価作業とあるが、大枠的な中身はどういうものか。

：ロシアの場合、データの持ち出しなどが難しい面もあり、具体的なデータでの検討がやりにくい。入手できるレポートなどの間接的なデータを用いて、既発見で比較的大規模なものを地質的に計算し、生産性を加味した上で、大雑把な可採埋蔵量を計算する。また、ロシアで公表されている埋蔵量データもあるが、欧米とは違った基準で算定されているため、標準的な基準で計算し直し埋蔵量を算出することも行っている。

**石油・天然ガス探鉱・開発技術業務**

杉山理事（石油・天然ガス探鉱・開発技術本部）が資料4を用いて説明

【質疑応答】

：資料4、p22にある東シナ海の今後の評価作業とは、具体的にはどのようなものか。

：帝国石油が鉱区を設定しているが、国際的な面も強いことから、政府の方針が決まった上で、当資源機構への具体的な指示がある。

：基本的なことだが、中期目標や中期計画の期間は何年か。

：中期目標は国から与えられるもので19年度までの4年1か月間。中期計画も同様である。

：技術戦略を策定中とのことだが、これと中期目標や計画との関係はどうなっているか。

：ここでいう技術戦略は、今の中期目標というよりも、次期の中期目標や比較的長期的な方向性を見据えている。昨今の油価の状況などが変化していることも考慮して、この時期に見直しを進めている。

：リビアの入札にて、日系企業が5社6鉱区を獲得したということだが、今後のJOGMECの日系企業に対する支援方針、計画はどのようなものか。

：リビアに関する支援方針は資料に示したとおりである。リビアの次は、サハリンだと考えている。サハリンには日系企業が参加して生産を開始しており、重要な地域と認識している。サハリン5にて、構造の発見があり注目されているところ。サハリンに関するJOGMECの評価結果を民間企業に報告した際、15社の参加があった。また、来年の入札に関心を持つ企業からのヒアリングを行い、税制や法制も含めて、順次、収集した情報を提供するなどより精度の高い、多くの情報を用いて日系企業が入札に勝ち抜けるよう支援しているところである。

：資料4、24ページ以降で技術開発についての説明から、非常に活発な活動をしていることがわかる。ニーズ直結型の技術開発、基盤的な技術開発、研修と多岐に業務がわたるが、限られた人員、施設、予算の中で、どのように配分していくのか、分析と自己評価をお聞かせ願いたい。

：石油公団からJOGMECに変わったことで、大きな変化は、技術者が非常に減ってしまったことが挙げられる。今後、どのように技術者を育成していくかが課題であり、そのような状況下、テーマの絞り込みなどを技術戦略の中で考えていきたい。

：中国・インドがマクロ的に非常にアグレッシブとのことであるが、彼らのやり方と日本のやり方の違いから、日本の資源確保のための将来像、方向性があれば、お聞かせ願いたい。

：中国・インドの国営公社系企業は国の支援を受けて、高い買い物であっても、国内に石油を持ってくるといふ国家の資源戦略に沿った購入を実施しているが、将来的に経済活動としてどこまでできるのかは疑問である。日系企業にとって、高油価の状況下、生産中の資産が高価になっており買収もままならない。インドや中国のような無謀なやり方で勝ち抜いていくことはできない。動向説明の最後のインプリケーションにもあったが、ガスの分野やリビアなどの新規国において、情報と技術をフルに活用していく必要があり、JOGMECは、そのような民間支援を行っていく。

休憩

### **金属鉱物資源を巡る最近の動向**

國友金属資源開発調査企画グループリーダーが資料3を用いて説明

### **金属資源開発支援業務**

逆瀬川理事（金属資源開発支援本部）が資料4を用いて説明

#### **【質疑応答】**

：海外地質構造調査の公募を実施しているが、どのくらいの期間で公募しているのか。また、審査基準はどのようなものか。

：3月より公募を行い、順次、審査の上、採択を決めている。申請企業の資金力や技術力、鉱区の取得の有無、将来の開発の可能性などを審査している。

：BRICsの中で中国・ロシア以外のインドの需要予測はどのようなものか。それらを考慮すると将来の需要が供給に対して追いつかないことが懸念される。即ちインドへの消費が顕著になれば、石油及び金属の需給が更にタイト化すると予測する。川下の製造業を生かすためにはどうしたらよいのか。石油で言えば、重質油の開発であったり、鉱山で言えば、小規模な鉱山開発案件を扱うなど、メジャーとの違った視点での、中長期的な計画、戦略が必要と思慮するが、この点に監視、将来の方向性についてどのような戦略を持っているか。

：先の見通しは難しい。技術開発でも説明することになるが、これまで開発されていなかった重質油であったり低品位鉱石であったり、そういうものの技術開発を行うことが重要になると思う。また、資源国との関係強化を図りつつ、個別具体的に行っていく必要がある。

：昔ほどには、日本の資金力がものを言わなくなってきた。日本の売りは、技術力であると思う。GTLなど外国の企業も興味を示しており、日本企業との提携の話もある。このような、技術面での強みを発揮していかなければならない。

### **鉱害防止支援等業務**

花角理事（鉱害防止支援等本部）が資料4を用いて説明

### **資源備蓄業務**

増田理事（備蓄本部）が資料4を用いて説明

【質疑応答】

：アジア諸国への備蓄の協力について、ベトナムから協力依頼による説明があったが、アジア全体のエネルギー安定供給という観点から、日本がリーダーシップを取りながら実施していくのか。

：アジアのエネルギー安定供給の観点から日本がリーダーシップを取ることは重要であるが、備蓄について言えば、必ずしも技術的先進国というわけではない。アジアを見ても、技術的には、韓国も進んでおり、地下でのLNGの備蓄も行っている。よって、我々が教えるというより、彼らが学び、我々も学ぶというところが大きい。

：IEAの放出について、日本は3日分の民間備蓄を低減することだったが、原油備蓄での対応とは別に、米国へガソリンを輸出したという動きもあった。昨今、このような多様な動向が見られ、日本のように精製能力に余力がある国では、原油の備蓄日数を低減すれば、処理量が増えることも考えられるが、米国のように精製能力が不足している国では原油備蓄よりも石油製品備蓄の方が有効との議論もあるように思う。各国の対応の中でユニークなものがあれば、御紹介いただきたい。

：IEAの放出については、ほとんどは原油による放出で対応された。一部で省エネでの対応もあった模様だが、ごくわずかな例であった。SEQという会議が開かれ各国の状況が報告されたが、基本的には原油による放出である。ただ、今回の場合、米国における石油製品の不足という特殊要因が発端であり、一部で、石油製品で対応したという動きもあった。

**総務企画、業務評価・審査業務**

梅村理事が資料4を用いて説明

【質疑応答】

：冒頭、JOGMECが巡航状態に入ったとの説明があった。中期目標は、組織の立ち上がり前に策定したものであり、外的環境も変化中、それを見据えた中でJOGMEC本来のミッションもアグレッシブに変化する必要があると思う。業務を執行する上で組織の見直しという点が具体的にどのように変わってきているのか、特命チームの設置など多少見られるものの、組織のパフォーマンスを変えていく具体的な仕組みの説明を、次回以降に報告願いたい。

：組織全体の目標とグループの目標、個人個人の仕事への落とし込みが上手くできている組織がよい組織だと思う。多様な業務があり、ご苦勞も多いことと思うが、がんばっていただきたい。また、プライオリティの高い分野について、集中的に議論ができればよいのではないかと思う。

定刻を過ぎたので、これで議事を終了とする。

3. 閉会の辞

：長時間の議論、ありがとうございました。次回は17年度実績報告ということで、3月の開催を予定している。閉会にあたり、副理事長の松田から挨拶を申し上げる。

：各委員から頂いた意見のメインは、中期目標・中期計画に対して、ミッションや戦略の明確化が必要とのご指摘であったと思う。今までは、目標や計画に書かれていることに対してすべて並列的に説明してきたことに対するご指摘でもある。まだ受身での仕事であり、JOGMECの積極的な取り組みが見られないということだと思う。人的資源の配置、予算の配分など、能動的な部分を出していく必要があり、次回には、そのような点を出して、御期待に沿いたいと思っている。いずれにしても、やっと動き始めたところ、今後半年間でどのように達成していくかが、我々の使命である。本日は、ありがとうございました。

(以上)